

誰もが自分らしく生きられる社会に

久留米商業高等学校 二年

近年、「性的マイノリティ」「L G B T Q」といった言葉をよく耳にするようになった。また、私の学校でも、その言葉についての講演会が行われた。私はその時まで、「L G B T Qって聞いたことあるな」というような認識で、まして「性的マイノリティ」という言葉すら知らなかった。しかし、講演を聞いてそのような人がいることを知り、もっとちゃんと理解したいと思った。それから、SNSなどのインターネットでL G B T Qを話題とした投稿がよく目にとまるようになった。それらを読んでいると、トランスジェンダーの方が性別適合手術を受け、前向きに生きられるようになった、ゲイの方がずっと好意を持っていた男性と想いが通じて幸せだ、などの投稿やそれを祝福するコメントがあった。その一方で、自分が同性愛者であることを周りに打ち明けるのが怖い、勇気をだして打ち明けたが相手に拒絶されてしまったという投稿があり、それがとても心に残っ

た。そして同時に、この人々も自分らしい生き方を選び、幸せに暮らす権利を持っているのに、まだまだ偏見や差別の目で見られ、自由に生きることが難しい状況にあるのだと感じた。

さらに、それを実感する経験をした。私は高校二年生の夏ごろ、レズビアン女の子と出会い、その日のうちに仲良くなり連絡先も交換した。彼女は、自分がレズビアンであることを周りに公表し、周りもそれを受け入れていたためとても楽しそうにしていた。ある日、中学校の友達と遊んでいるところに偶然彼女が居合わせた。最初は話が弾んでいたのだが、話しているうちに彼女がレズビアンと知った友達はプライベートな質問をし始め、彼女はとても悲しそうな困ったような顔をしていた。私は急いで話題を変え、その後友達にそのような発言は失礼だと注意したが、友達は何が良くなかったのか理解できないという感じで、私は彼女を傷つけてしまったかもしれないと、とても申し訳ない気持ちになった。

私はこの出来事から、LGBTQの人々は偏見や差別の目で見られ、接されることがあるのだと

実感した。以前よりもLGBTQという言葉は社会に浸透してきただろう。しかしLGBTQがどういうことなのか理解し、受け入れている人はどれくらいいるのだろうか。私自身、講演がなければLGBTQについて考えることもなかったかもしれない。今回のようなことがまた起きないように、私たちはまずLGBTQをよく知らなければならない。そして周りに広めなくてはならない。そうすれば、無知や誤解から彼女達が傷つけることもなくなるだろう。私たち一人ひとりが相手をよく知り、理解し、受け入れることが重要なのだ。それができてやっと、多様性を受け入れ、誰もが平等に尊重される社会になるのだと私は思う。